



Architecture
Presentasion

architect
Jin Kawazoe

河添 甚



Bauhaus Project



建築家と建てる家を、
身近に、手軽に



R+house

※建築家住宅(建築士の資格を持つ独立した建築家により基本設計された住宅)
主要供給事業者7社における2017年度、2018年度新築供給数
(株)矢野経済研究所調べ/2019年8月現在







担当建築家

河添 甚

河添建築事務所@東京

Kawazoe Jin

要望や条件をまとめる際のお客さまとの会話を大切にし、会話の中に見え隠れする希望や想いをできるだけ抽出できるように心がけています。また、住宅デザインについては機能と連動させたシンプルなデザインとすることで使い勝手がよく、デザイン性の高い住宅設計を行います。

Profile

1977 香川県生まれ

2001 大阪工業大学建築学科卒業設計展 入賞

2002 日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」出展作品

2002 大阪工業大学工学部建築学科卒業

2003 株式会社 プランテック総合計画事務所入所

2010 河添建築事務所入所

2010 東京テクニカルカレッジ（旧東京工科専門学校）非常勤講師

1F

敷地面積 : 45.22 坪 (149.52 m²)
1階床面積 : 14.77 坪 (48.85 m²)
2階床面積 : 12.77 坪 (42.23 m²)
延床面積 : 27.54 坪 (91.08 m²)

2F



吹き抜け
《4.5 帖》



心が澄む家

POINT①

シンプルに、フラットに暮らしたい。
生活感を出さない為の建築家の解決法とは？

POINT②

プライバシーを守りつつ、室内に光をもたらす憧れの“中庭”

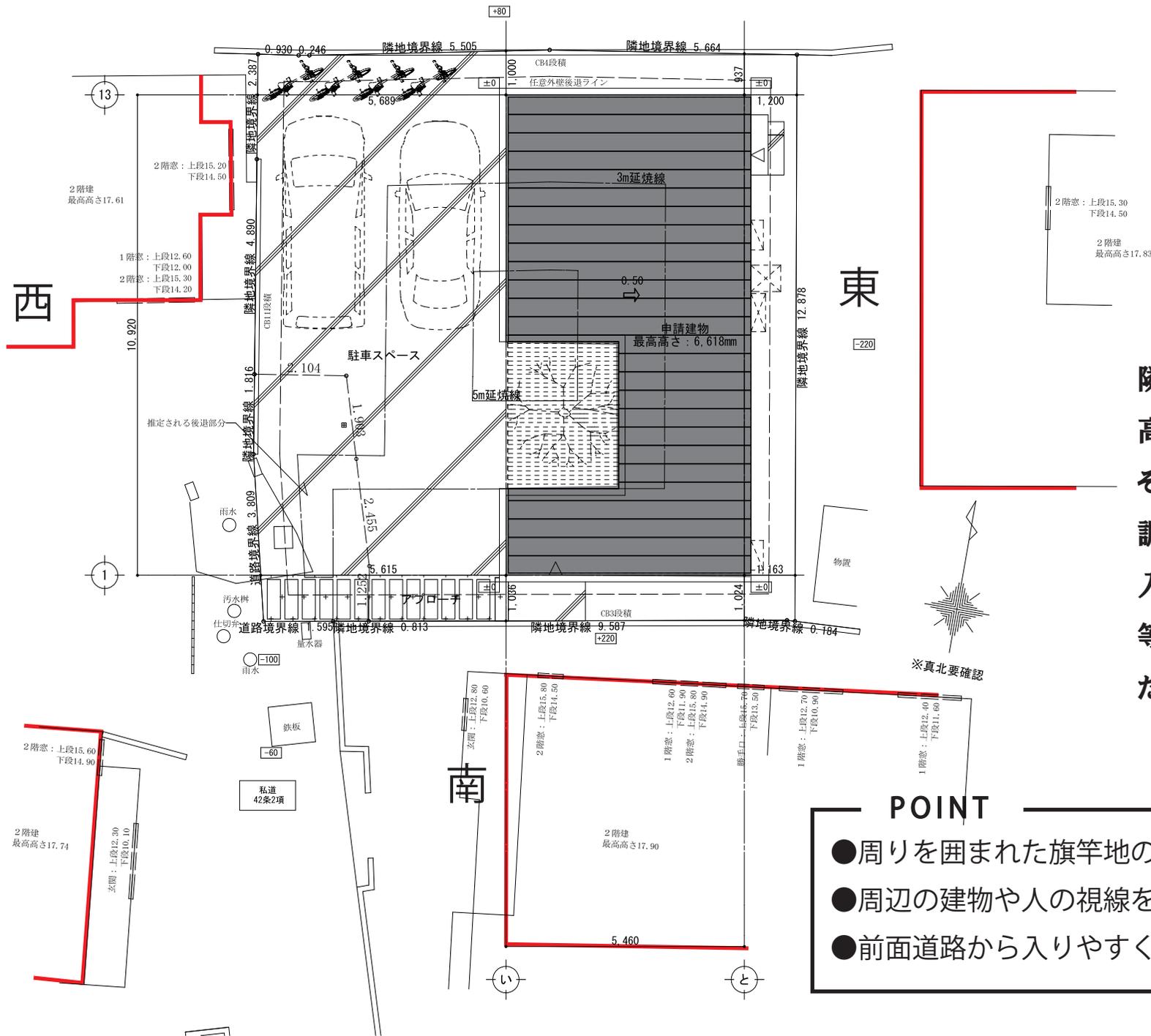
POINT③

キッチンやランドリーの快適な家事動線。
家事がグッと楽になる、間取りの工夫。

北

block planning

配置計画



東

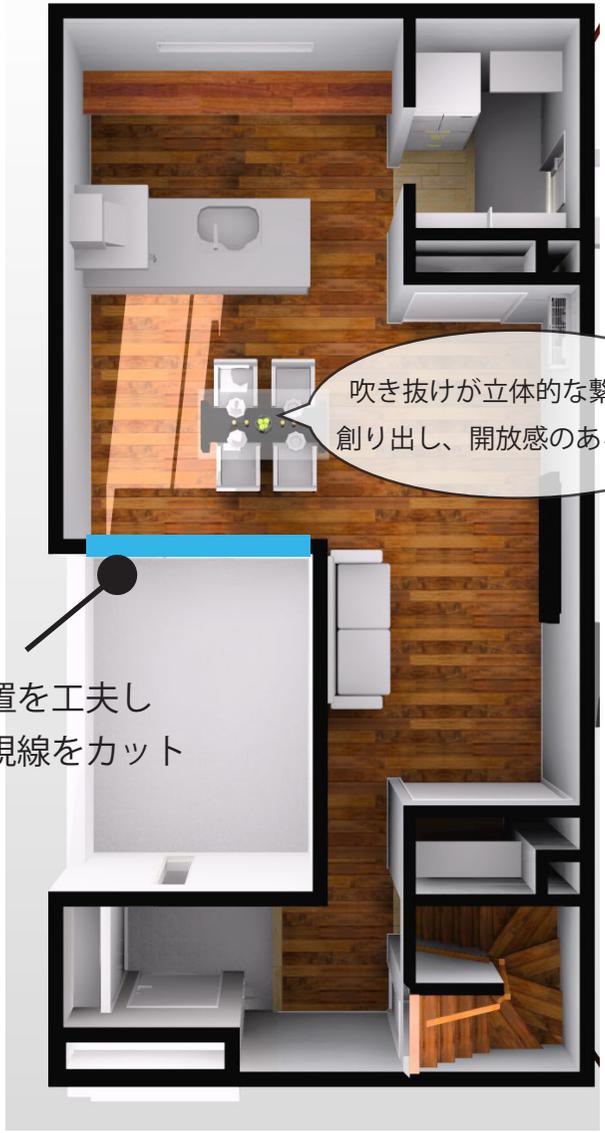
隣家の位置、玄関や窓の位置、高さ等も計測します。
 そのデータをもとに建築家は現地を調査し、視線・風の抜け方・光の入り方、隣家や周辺からの見え方等を総合的に見て、その敷地に合ったベストな設計をします。

POINT

- 周りを囲まれた旗竿地のような土地
- 周辺の建物や人の視線をかわしつつ、光を取り入れる工夫
- 前面道路から入りやすくするために、建物を東側に配置

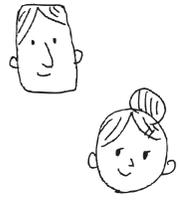
リビング・ダイニング

庭
(駐車スペース)



窓の配置を工夫し
外からの視線をカット

吹き抜けが立体的な繋がりを
創り出し、開放感のある空間に



1F

シンプルでフラットな空間が好き！
 何もない感じというか、箱の中にいるようなイメージですね。
 あんまり生活感を出したくないかも・・・。
 LDKは家具も必要最低限置いとけばいいかなって思いますね。
 あとは、明るくて開放的な空間がいいなあ。
 中庭にもすごく憧れがあって・・・！BBQとかたまにできたら
 いいな～なんて思います。
 ただそうすると、周りからの視線が気になるかな・・・

建築家 POINT
要望+αの提案

お風呂場やランドリースペースといった水回りを
2Fに持っていきました。
 そうすることで、プライベートとパブリックを空間で分け
る事が可能なので、シンプルですっきりします。
 中庭の窓は、周りが建物に囲まれているので配置を工夫しました。
 ダイニングスペースの南側に窓を設けることで、外から直接的な
視線をかわしつつ、家の中に光を効率的に取り入れることが出来
ますよ。また、中庭は腰壁があるので外から中の様子は見えにく
くなっています。オープンだけどプライバシー性の高い中庭です。
BBQもしやすいですね。

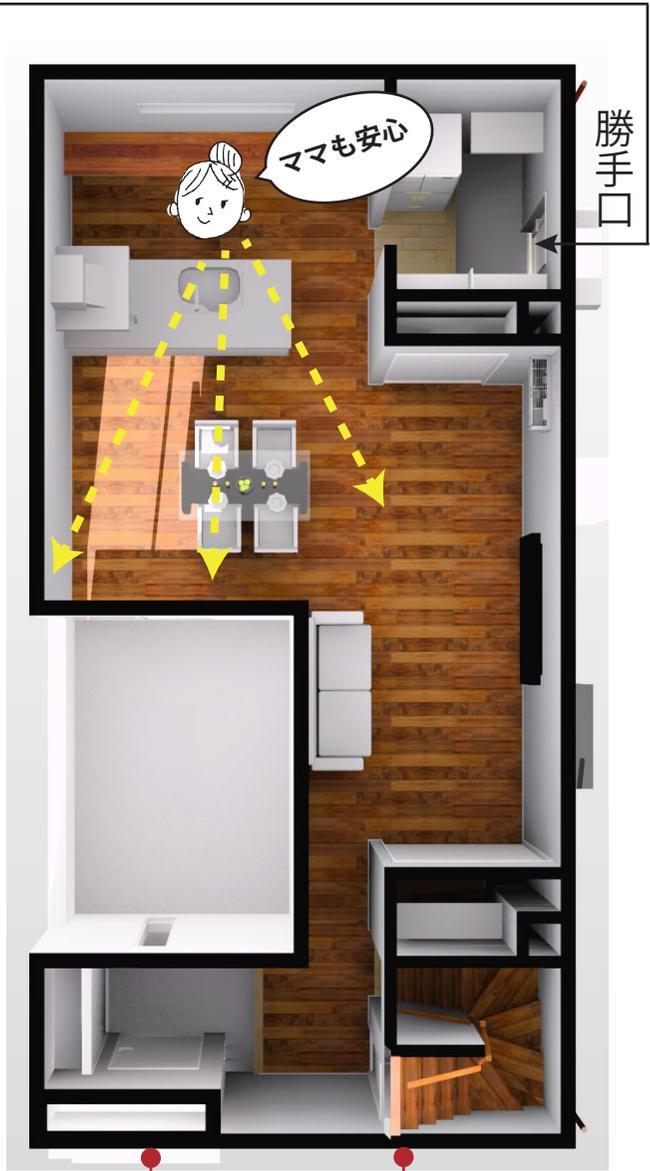
リビングに関しては、主に使用する時間は夜であること、日中は
光が入りすぎるとテレビの画面も見えづらくなるので、あえてダ
イニングよりは光が入るのを控えめにしています。
 また、ダイニング上部に吹き抜けを設けました。
 1Fと2F、立体的なタテの繋がりを創ることで、開放的で広がり
のある空間にすることが出来ます。



キッチン

庭
(駐車スペース)

道路
↓



駐車スペースのある西側をすっきり見せる為、玄関入り口は南側に配置。

階段下にトイレを配置しスペースを有効的に活用

1F



キッチンは対面式がいいな。テーブルは横付けじゃなくていいかも。家事をしながら子供が庭で遊んでる様子を見れたらいいな。あとはキッチン周りの家事動線が楽になるといいな〜。扉はいらないけど、食料等をストックしておくパントリースペースが欲しいかも！

建築家 POINT 家事をグッと楽にする建築家の設計力

キッチンをダイニングと正対するように配置しました。ダイニングの先が中庭なので、お子様が中庭で遊んでいる様子や、家全体を見渡しながら料理をすることが出来ますよ！中庭や吹き抜けへ視線も抜けるので、開放感もあります。冷蔵庫もパントリー内に収まるようにしたので、生活感も抑えることが出来ます。また、パントリーの先に勝手口を設けました。食料品等を買って帰ったとき、駐車場から勝手口へ回ること、そのまま収納するという動線を確保しました。



なるほど！これなら重い荷物を抱えて遠回りしなくても済みますね！パントリー内に冷蔵庫が収まるのも、すっきりして良いですね！



寝室



寝室は特にこだわりはないですね。
ただ、**部屋が多少コンパクトになっても、収納スペースは欲しいかも。**



寝室は寝るだけの場所、という考え方ですね。
収納スペースは、各部屋に設けるのではなく、一か所にまとめてファミリークローゼットとして設けました。そうすることで、それぞれの部屋を最大限に使えるようになります。また、主寝室は壁の上部を吹き抜けに繋がりました。そうすることで部屋の中から視線が抜けて、実際の面積よりも広く感じることが出来ますよ！
また、1Fから見た時に、吹き抜けの奥まで空間が広がっているのが分かるので、LDKからの視線の抜けも確保する事が出来ます。

建築家 POINT
広がりを生み出す工夫

UP!



寝室→吹き抜け→吹き抜けの先の窓、と視線が抜けるので、**実際の部屋の大きさよりも広く感じることが出来る視線誘導。**
寝る際には、上部にロールスクリーンを取り付けるなどして区切ってもOK



2F

洗面・脱衣・ランドリー



洗濯物を部屋干しできるスペースが欲しいな～。
お風呂場には窓が欲しいかも！掃除するときとかは気分的に開けときたいっていうのもありますね。



2階に配置する水回りスペースを一か所に纏めました。
脱衣所で洗濯を回した後は、そのままそこに干すことができます。
ドアを開けてすぐの場所にファミリークローゼットを設けたので、乾いた洗濯物はそのまま片付けることができます！
お風呂場の窓はプライバシー性に配慮しつつ、高い位置に2か所設けました。

建築家 POINT
家事がグッと楽になる動線の工夫



わあ～！
これなら洗濯してすぐ干せるし、乾いた後もそのまま収納できますね！
家事が楽になるのは嬉しいです！



2F



子供部屋・スタディスペース

子供部屋なんですが、あらかじめ分けておきたいなと思っていて・・・それから、イスに座ってPCで作業できる場所が欲しいですね。



PCの作業という事は、ご自宅でもお仕事をされることがあるのでしょうか？



いえ、仕事というわけではないのですが、PCで調べものをするときにちょっとしたスペースがあるといいなと思っていて。



なるほど。
では、同じサイズの洋室を二つ、分けて配置するのはどうでしょう？
一つは子供部屋、もう一つはスタディスペースなど、**その時の家族の状況**で使い分けて頂ければと思います。

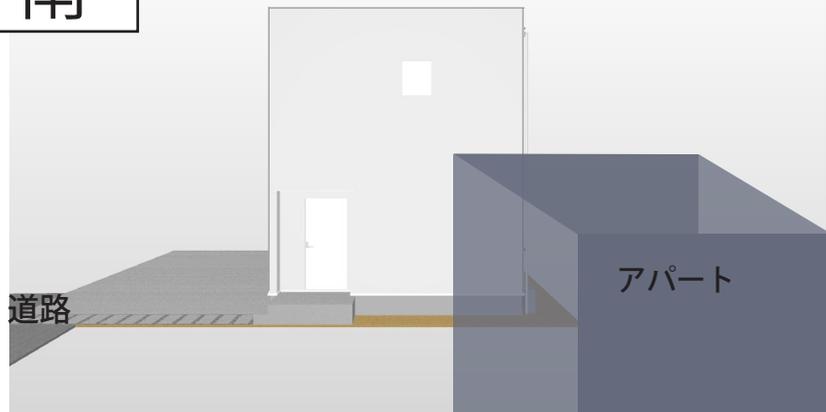
建築家 POINT
可変性のある間取り



2F

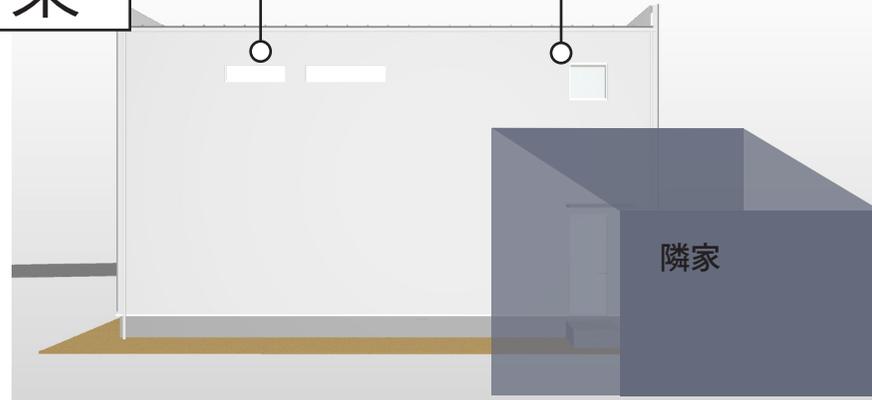
土地の南側にアパートがある為、窓は最小限配置しプライバシー性を確保。
南側＝「大きな窓」ではなく、その周辺環境を考慮した配置と窓計画。

南



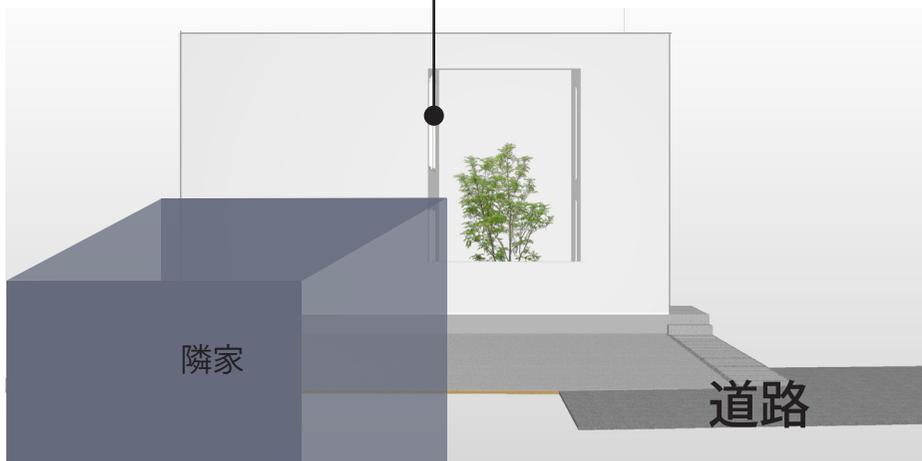
西側に駐車場を確保するため建物を東側に寄せている。
東側は空き家だが、将来家が建つ可能性がある為、
南側同様窓を最小限配置しプライバシー性を確保。

東



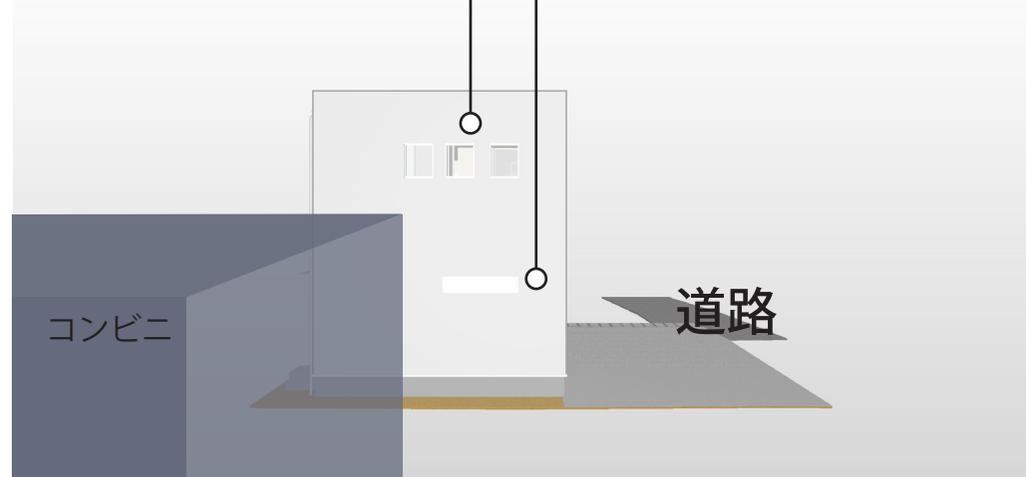
西側にも隣家があり、道路にも接している為完全に閉じた印象。
しかし、中庭の窓を南側に向けて大きく設けている為、視線は遮るが
室内への風や光はしっかりと入ってくる。

西



北側は他の方位よりは若干開けているものの、少し斜めの位置にコンビニ
がある為視線をかわせるような窓の配置に。

北



熊本市風配図

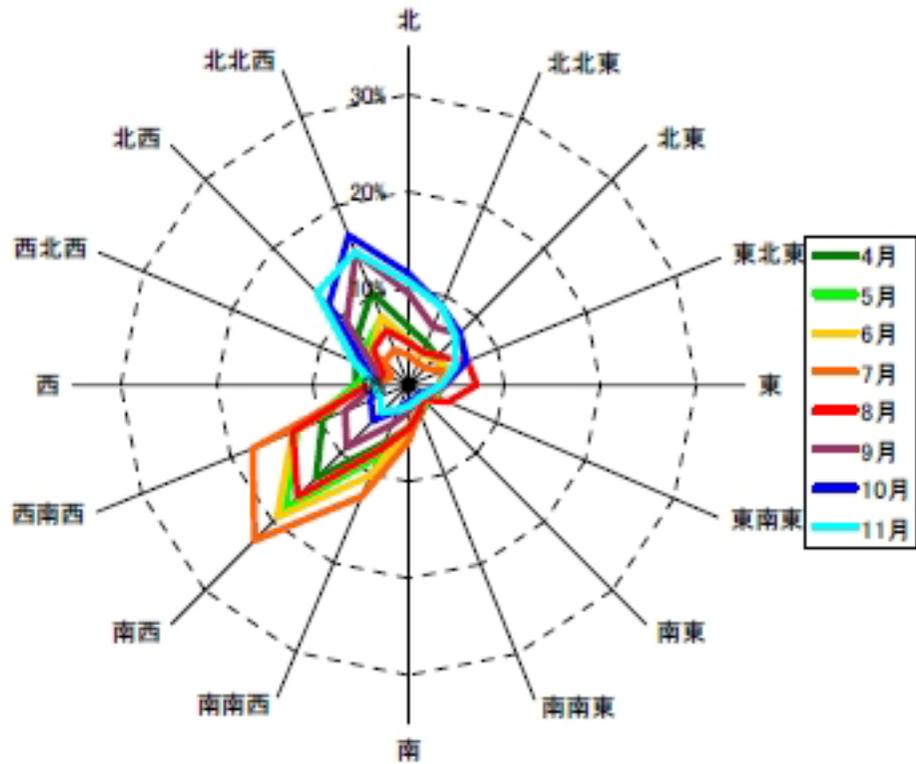


図4a 月別風配図(起居時)

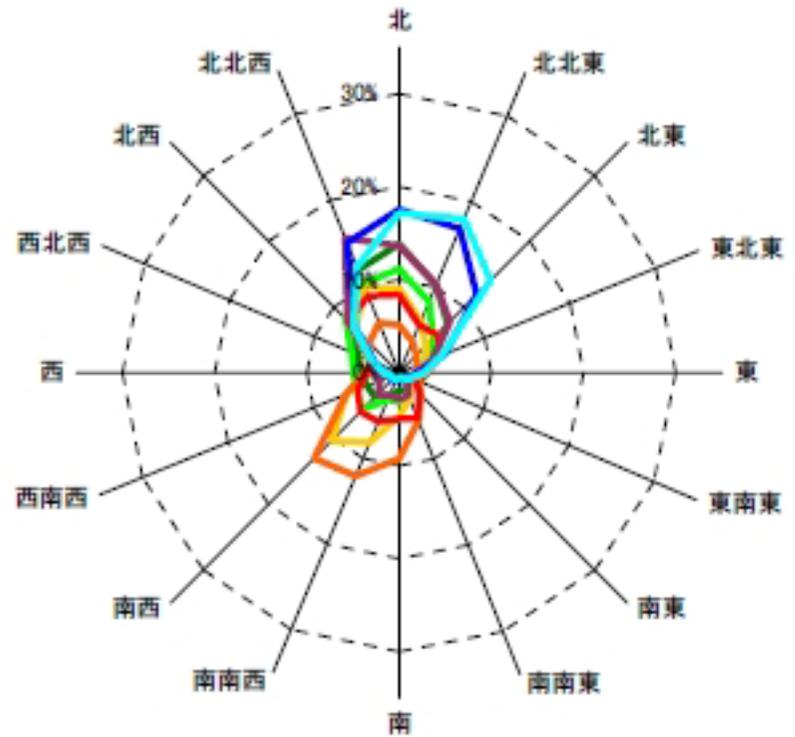


図4b 月別風配図(就寝時)

風配図とは、各方位の風向および風速の頻度を表した図です。

建築家は周辺の建物や環境を実際に目で見て、データと照らし合わせながら風の向きや、入り方なども計算して「窓の配置」「窓の種類」「建物の配置」を決めていきます。

冬は部屋の奥まで光を取り込み暖かく、夏は窓から入る直射日光を避け、涼しく自然の力を最大限活かしたパッシブ設計。

真冬午後12時



(冬至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が低くなる為、太陽が西に傾く頃、窓から部屋の奥まで暖かい光を取り込むことができる。



真夏午後12時



(夏至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が最も高くなる為、軒を出して日射を遮り、室温の上昇を抑える。



夏と冬では太陽の位置が異なります。建築家は季節ごとに変わる太陽の動きも熟知した上で設計します。